

本校の概要

本校は、神奈川県横須賀市野比にあり、知的障害を伴う自閉症幼児児童が学ぶ特別支援学校である。昭和48年に設立された本校の前身である国立久里浜養護学校の実践を踏まえつつ、平成16年度からは、筑波大学の附属学校として知的障害を伴う自閉症の子供たちに対する教育についての研究に取り組んでいる。

本校の教育目標は、「子供一人一人の思いや個性を大切にし、障害特性等に応じた指導を通して、豊かな心と丈夫な体を育み、主体的に考え、判断し、表現する力と態度を育成する。」である。子供たちは、一人一人障害の状態や特性、心身の発達段階が異なり、実態は様々である。また、個々に有する思いや個性、興味・関心なども様々である。これらの多様な実態の子供一人一人に応じた指導を行うことで、個々の良さや可能性を広げていくことが学校の役割である。子供の実態を的確に捉え、指導目標・指導内容を適切に設定し、有効な手立てを用いるあるいは必要な配慮を行いながら指導を展開することにより、将来の自立や社会参加のために、たくましく生きる力の基盤を、確かに育てることを目指している。

さて、本校には、幼稚部と小学部の二つの学部が設置されている。令和2年度の幼児児童及び教諭の人数は、表1のとおりである。

幼児児童の居住地は、学校がある横須賀市を中心に、三浦市や横浜市、川崎市などである。幼児児童は、二台のスクールバスや公共交通機関、保護者やヘルパーの送迎で登校している。今年度は、感染症対策のため、スクールバス内での密を避けるために、保護者に協力を仰ぎ、可能な家庭には、自家用車での送迎を依頼した。

学校には寄宿舎があり、遠方に居住地がある児童が、平日に入舎して生活をしている。今年度は、小1～3年及び5年の児童5名が利用している。児童がくつろげる空間を整え、児童の思いをくみ取りながら、家庭的な雰囲気大切に日々の生活指導を行っている。子供たちは、寄宿舎指導員と生活を通して、挨拶やマナー、食事や入浴、排せつに関することなどの日常生活における基本的な生活習慣を学んでいる。今年度は、感染症予防のため実施できなかったが、一昨年度から、子供の生活上の課題を学級と寄宿舎と保護者とで連携しながら解決していく取組として、寄宿舎生以外の幼児児童を対象にして「生活体験入舎」も実施している。

教諭の約4割は、11道都県から人事交流で赴任した者であり、交流期間は3年程度となっている。様々な地域や校種、学部を経験した教諭が集まっていることから、互いに意見を交わし合いながら実践に取り組んでいる。そして、教諭はもとより管理職、栄養教諭、養護教諭、寄宿舎指導員、看護師、事務職員やスクールカウンセラーなど、全職員で協力しながら、子供たちへの指導を行うことを大切にしている。

保護者との連携では、PTA活動に加え、父親を中心とする「おやじの会」がある。今年度は、オンライン配信で性に関する学習会を行ったり、桜やブルーベリーの木の植樹を行ったりするなど、保護者が子供との関わり方や育ちを学び合う取組を企画したり、子供たちが安心して、楽しく学校生活を送ることができるように学校の環境を整えたりすることに取り組んでいる。

表1 幼児児童及び教諭の人数

部	教室	幼児児童	教諭
幼稚部	ひよこ組 (3, 4歳児)	6	3
	りす組 (4歳児)	5	2
	うさぎ組 (5歳児)	5	3
小学部	第1学年	6	3
	第2学年	5	3
	第3学年	6	3
	第4学年	6	3
	第5学年	6	3
	第6学年	6	3